

主なイベントスケジュール (詳細・その他のイベントはこちら:<https://www.kwansei.ac.jp/event/eventlist.html>)

《イベント欄への掲載、および取材の参考資料としていただければ幸いです》

最終講義のお知らせ～2020年3月末退職教員(1月開催分)～

●西宮上ヶ原キャンパス

2020年1月6日(月) 15:10～16:40

国際学部・山本 雅代 教授 / G号館 202教室

題目:『「バイリンガリズム」を追いかけて…40数年!』

2020年1月8日(水) 11:10～12:40

教職教育研究センター・善明 宣夫 教授 / B号館 103教室

題目:『教師ストレスとメンタルヘルス』

2020年1月8日(水) 11:10～12:40

社会学部・岡田 弥生 教授 / B号館 102教室

題目:『W. フォークナーの罪と贖いの物語』

2020年1月8日(水) 13:30～15:00

社会学部・古川 彰 教授 / H号館 201教室

題目:『風景とフィールドワーク』

2020年1月8日(水) 11:10～12:40

人間福祉学部・井出 浩 教授 / G号館 201教室

題目:『障害があることと健康であること』

2020年1月9日(木) 11:10～12:40

神学部・ダヴィッド・ヴィダー 教授 / 関西学院会館 ベーツチャペル

題目:『パウロのユダヤ的背景に基づく神への告白 -ロマ書を中心に-』

2020年1月9日(木) 11:10～12:40

商学部・山本 俊正 教授 / 第4別館 202教室

題目:『私の歩みと聖書との出会い -Mastery for Serviceという羅針盤』

●復興・減災フォーラム

「震度7」が遺したもの ～阪神・淡路大震災25年～

2020年1月11日(土)、12日(日) 13:00～17:30

西宮上ヶ原キャンパス 関西学院会館 レセプションホール

◇全国被災地交流集会「円卓会議」<11日>

テーマ:「ボランティア元年」わが事にする

第1部 地域復興の担い手/第2部 多様な支援態勢/第3部 総括討議

◇シンポジウム <12日>

基調講演:「今に続く1・17」中川 智子・宝塚市長

パネル討論「『人間復興』の実現に向けて」

一般聴講可。無料。事前申込必要(FAX0798-54-6997または下記URLより)

問い合わせ: 災害復興制度研究所 / 0798-54-6996

詳細: https://www.kwansei.ac.jp/event/2020/event_20200111_013955.html

●第4回先端研セミナー

伝承の消長 —「来訪神」の文化遺産化をめぐる—

2020年1月27日(月) 15:00～17:00

西宮上ヶ原キャンパス 先端社会研究所セミナールーム

報告: 島村 恭則・社会学部教授

2018年にユネスコの無形文化遺産に記載された国内に伝わる「なまはげ」など、「来訪神」の事例を通し文化遺産化をめぐる〈有形／無形〉、〈物質／非物質〉、〈可視／不可視〉などについて考えます。

一般聴講可。無料。事前申込不要。

問い合わせ: 先端社会研究所 / asr@kwansei.ac.jp

詳細: https://www.kwansei.ac.jp/i_asr/news/2019/news_20191206_023517.html

【お知らせ】

12月24日(火)12:00～2020年1月5日(日)まで、冬季休暇につき、

広報室の窓口業務は休止させていただきます。

来年もどうぞよろしくお願いいたします。

好評! 今週の一枚 by HASEGAWA

■写真撮影: 長谷川朋也 / フリーカメラマンを経て、現在は関西学院広報室職員。

「伊丹聡一郎さんのこと」



(撮影2018年10月12日)

カメラを持って学内を歩き回っていると、顔見知りになったり会うたびに話すようになったりする学生や教職員の方が何人もいます。伊丹聡一郎さん(文学部4年)もその一人でした。

新聞総部の学生記者だった伊丹さんは「大学内のバリアフリー」「障がい者と防災」などの取材に取り組み、会うたびに熱心に話してくれました。そんな伊丹さんが急な病に倒れ、亡くなられて4か月。1年にも満たない付き合いでしたが、様々なことが頭をよぎります。

私を見かけると、電動車いすを飛ばして駆けつけてくれたこと。去年のクリスマス前、「誰からも何ももらえない」とボヤいた私に小さなチョコレートくれたこと。「社会で活躍して、KGジャーナル(学内広報誌)の表紙に載りたい」とも。

ただ、カメラマンとしての私が伊丹さんをしっかり撮影したのは、初めて言葉を交わした昨年10月の1度だけでした。自分という存在を、多くの人の記憶に残したいと強く思っていた彼。そんな思いに、もっと応えてあげたかった。

伊丹さん、今年最後の「一枚」に、あなたのことを取り上げます。何事にも積極的だったあなたの姿勢に、私も学ばせていただきました。できればもう一度、写真を撮らせていただきたかった。それでは、また。

※その他の写真はここから: https://www.kwansei.ac.jp/press/2019/press_2019.html

(関西学院大学HP「ニュース・イベント」情報、報道発表ページ内「KG WEEKLY NEWS No.990」よりご覧ください。)

